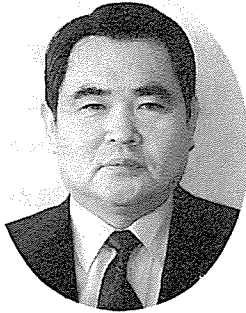


奥山 紘一 氏

21世紀に向けて！



奥山 紘一 氏

株式会社新東京ボーリング代表取締役社長
東北地質調査業協会理事

奥山紘一社長は昭和41年5月の創立時から、父親でもある奥山亨吉会長と共に「常に経営とは時代の変化と多様化する価値観に適應する技術である」の格言を守りながら、人材育成の為資格試験へ、チャレンジする社員教育、機会あるごとの各学会発表、超音波を利用した水位計「ソニックガン」の研究開発等“技術革新”と“特性ある企業体質の改善”に力を入れられ、創立以来、ニクソンショック、第1、2次石油危機をはじめ、幾多の試練を経て共に貴重な体験と教訓を学んで来た若い社員が多く、少々のことではへこたれない頼もしい社風と人づくりに力を注いで来たとの自信の程を見

せ、今後は、21世紀に向け、一步一步踏み出して行く考えを強調された。

対談中、業界の営業活動にふれた時は、創立時ほどこの営業マンも、常に、会社存亡の危機感と使命感を持ちながらの営業活動だったので、その時お世話になった数多くの営業マンの顔を一人一人思い出しながら、当時を大変なつかしさがっておられる様子が特に印象に残った。

現在は、当協会理事、山形県さく井地質調査業協会副理事長、地元では若手経営者のリーダーとして、多くの公職とライオンズクラブを始めとするボランティア活動に汗を出し多忙を極めながらもより早く、正確に多くの情報をキャッチしながら企業経営にあたっておられる様がうかがえた。スポーツは、テニス、ゴルフとなんでもひととおり、こなし、特にゴルフは一時、シングルプレイヤーになった事もあり、ゴルフの上達の秘訣はとの間に“3年間みっちりゴルフ（練習・マナー・エチケットも含めて）に身を入れて頑張ってみること”ただし、心身とも健康を維持し、仕事も大いにやり、その上でのゴルフでなければと強調

され、私達には耳の痛い答が帰って来た。

最後に、奥山社長は「何よりも健康が第一」と強調した上で、今後とも業界発展の為に微力ながら精一杯頑張りますから、皆様にはくれぐれもよろしくお伝え願いたい、と話され対談を終了しました。

東北の業界では早くから、営業畑で活躍された奥山社長との対談なので、緊張して臨みましたが対談がすすむにつれ、温厚な青年実業家という感じで、ついつい長話しになってしまいましたが、心よく予定時間を大巾に超えたにも拘らず、いつまでも対談にご協力をしてくれ、多忙な時間をさいて頂いた奥山社長に心からお礼を申し上げたいと思います。

Profile

昭和15年1月5日生れの52才

学歴：新庄北高校を経て、早稲田大学
(法) 卒

職歴：昭和39年4月 東京ボーリング倶
入社

昭和41年5月 ㈱新東京ボーリン
グ創立

昭和59年4月 ㈱新東京ボーリン
グ社長に就任、現在に至る。

趣味：読書、ゴルフ、テニス等（最近は、相撲を始め専ら観戦が多くなった）。

家族：会長夫妻と同居、三人の娘さんをアメリカと東京の大学に出して、現在は明子夫人と二人で留守を守っている。

(インタビュー 広報委員会)

